

2026年度 入試問題分析シート

東京大学

前期日程

科目

日本史探究

総括

試験時間	2科目150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

- 戦後史を含め、第4問は近代史・現代史の総合問題となった。
- ほぼ例年通りの出題形式。総字数は昨年度より30字増加した(30字×21行)。
- 参考文・史料の内容を読解して考察することが求められた。

〈特記事項・トピックス〉

- 第1問は、律令制下の女官の職務や政治権力との関係が、9世紀前半にどのように変化したかを問う問題であった。
- 第2問は、A御成敗式目がどのような方針で制定されたかを問う問題であった。B御成敗式目と分国法の関係について問う問題であった。
- 第3問は、A石高がある通例の村と異なり、清内路村に石高がなかった理由について問う問題であった。B18世紀の清内路村が、米を生産する村と比較して、経済面でどのような特徴を持っていたかについて問う問題であった。
- 第4問は、日中戦争から太平洋戦争期にかけての時期には、多様な職場で働く女性が増加したが、戦争終結後にその動きが続かなかった理由について問う問題であった。B高度経済成長期の女性の働き方の変化とその背景について問う問題であった。

〈合格への学習対策〉

- 「駿台のテキスト」や、駿台文庫の『東大入試詳解・日本史』、『日本史論述研究―実戦と分析―』、『東大青本』の熟読を中心に、教科書を含めた精度の高い学習が要求される。
- 夏期または冬期講習の「日本現代史徹底整理(戦後史)」を受講し、戦後史の学習を完璧にする必要がある。
- 本年度も、歴史を理解するための基本的概念の把握に努め、論理的・多面的に考察して論述することが要求されている。常に考えながら学ぶ姿勢を維持し、思考力を養成する学習が何よりも大切であろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第1問	論述 5行	律令制下の女官の職務や政治権力との関係	参考文を用いた出題形式。 律令制下の女官は天皇に近侍し、重要な職務を担ったが、薬子の変を機に蔵人が天皇に近侍するようになると後宮十二司の地位が低下したこと、しかし、尚侍になった有力貴族の娘が皇后などになったことを述べればよい。	標準
第2問	論述 5行	御成敗式目と分国法	参考文を用いた出題形式。 A御成敗式目が先例と道理に基づく裁判の基準を創出することを方針として制定されたことを述べればよい。 B御成敗式目が分国法に影響を与えたこと、分国法には、御成敗式目を踏襲したものや、実情に合わせた規定を付加したものがあったことを述べればよい。	標準
第3問	論述 A 2行 B 3行	米を生産する農村と石高がなかった清内路村との比較	参考文を用いた出題形式。 A百姓が木師である山村の清内路村では、土地の生産力を米の量で表示する石高が設定できなかったことを述べればよい。 B年貢米を負担し、食糧も自給できた米作の農村と異なり、清内路村は賃労働などで現金収入を得て、食糧を購入し、代金納を行っていたことを述べればよい。	標準
第4問	論述 A 3行 B 3行	戦中期と高度経済成長期の女性の労働	参考文・グラフを用いた出題形式。 A戦中期、徴兵された男性に代わり、女性が軍需産業などに動員されたこと、敗戦後、男性が復員すると女性は家庭へ復帰したことを述べればよい。 B結婚や出産を機に退職した女性が、育児後、パートタイムなどで復職したことを述べればよい。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。